

令和7年度外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 がん教育教材活用研修会及びがん教育外部講師活用研修会 報告書

1. 目的

がん教育推進のための教材の活用に関する講義、外部講師によるがん教育の実施における留意事項や効果的な進め方等の講義を通して、がん教育の充実を図る。

2. 実施概要

- ・実施方法：オンデマンド配信
- ・申込期間：令和7年6月25日(水)～7月28日(月)
- ・視聴申込者数：1,922名 ※教材活用研修会と外部講師活用研修会の申し込みは同一フォームにて実施
- ・視聴期間：令和7年8月6日(水)～9月30日(火)

■教材活用研修会

がん教育における留意事項と効果的な進め方について伝えるとともに、がん教育の教材活用に向け、より効果的、具体的な活用事例を紹介

<内容>

開会 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育 がん教育推進係長 大坂 圭 氏	視聴期間の案内、挨拶
挨拶（対談形式）約5分 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課長 樺原 哲哉 氏 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟 氏	<ul style="list-style-type: none">・導入・本研修のねらいについて・がん教育における教材の活用について →次期学習指導要領改訂に向けた教育課程の今後の在り方 とがん教育について →今後のがん教育 →より効果的に教材を活用するためのポイント
講義（約20分） 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟 氏	<ul style="list-style-type: none">・がん教育の定義、目標について・「がん教育推進のための教材」の紹介 →「がんという病気について」や「我が国におけるがんの 現状」等、教材内容をもとに説明 →教材を活用した高等学校での実践事例について
Q&A（約15分） 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟 氏 ※インタビュー方式で実施	<ol style="list-style-type: none">1. 発達段階に応じた指導法の工夫やポイント2. 共感的な理解を深めるための授業の手立て3. 授業時間の確保や教職員間の連携4. 配慮が必要な児童生徒の対応
閉会 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 がん教育推進係長 大坂 圭 氏	事後アンケートのお願い、がん教育実施状況調査がある旨 について連絡

※文部科学省の組織改編に伴い、令和7年10月1日付で健康教育・食育課は総合教育政策局へ移管されました。

<Q&A>

Q 1. がん教育をより効果的に推進するための発達段階に応じた指導法の工夫やポイントを教えてください。

A.

- ・生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目標に学習内容が体系的に位置付けられている。
- ・校種ごとの主たるねらいは、小学校ではがんを通じて健康と命の大切さを育むこと、中学校では科学的根拠に基づいた理解をすること、高等学校ではそれらを踏まえ、より総合的に捉え、個人及び社会生活における健康・安全に関する内容を取り扱うこととなっている。
- ・がん教育の実施においては、各校種のねらいを踏まえ、発達段階や実情に応じて効果的な指導方法や外部講師の活用などの工夫を行うことが大切。
- ・一方的な講義だけではなく、グループディスカッションや体験談をもとにしたブレインストーミングなど、参加型・対話型の学習を行うことでより理解が深まる。

Q 2. 共感的な理解を深めるための授業の手立てについて教えてください。

A.

「がん教育推進のための教材」には、補助教材として映像教材もあり、がん経験者やがんに携わる方々のメッセージや思いを学ぶこともできる。これらの教材も活用し、がん=怖い病気ではないこと、治療の進歩や治った後の生活の可能性等、前向きな側面も伝えながら、授業のねらいや生徒の発達段階に応じて工夫してほしい。

Q 3. がん教育を実施する上で、授業時間の確保や教職員間の連携についてのアドバイスを教えてください。

A.

がん教育は、保健体育科だけでなく、特別活動や道徳科等も含め、学校教育全体を通じて行われる健康教育に位置付けて推進する必要がある。各教科等の連携を図り、学校全体の取組として意図的・計画的に実施することで、全教職員によってがん教育を推進する体制を構築するとともに、各教科等で取り扱う内容や順序、関連のもたせ方など、実施した効果を検証し改善することが重要となる。

Q 4. がん教育を実施する上で、配慮が必要な児童生徒の対応について教えてください。

A.

- ・がん教育を実施する上で、配慮が必要な事項としては次の4点があげられる。
 - ① 小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒がいる場合
 - ② 家族にがん患者がいる児童生徒や、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合
 - ③ 生活習慣が主な原因とならないがんもあり、特に、これらのがん患者が身近にいる場合
 - ④ がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒や、家族に該当患者がいたり、家族を亡くしたりした児童生徒がいる場合
- ・これらについて、児童生徒本人や保護者と事前にしっかりと確認や打合せをする必要があり、その際、学校におけるがん教育の方針やねらい等を便り等で事前に児童生徒や保護者に周知し、各家庭の状況等を把握しておくことが重要となる。最近ではGoogleフォーム等を活用し、個別にアンケートを実施するなどの方法もとりいれられている。

アンケートや個別指導の活用も考えられ、日本学校保健会の資料には個別指導の実施例や保護者向け文書例等を掲載している。

The first screenshot shows a slide titled 'がん教育教材活用研修会' with a question '現行学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば' and icons related to learning and communication.

The second screenshot shows a video frame of a man speaking, with the question 'Q3. がん教育を実施する上で、授業時間の確保や教職員間の連携について、アドバイスを教えてください。' and his name '若田 悟'.

The third screenshot shows a slide titled 'がん教育カリキュラム・マネジメント' with a section 'がん教育のカリキュラムマネジメント' and text explaining its purpose and importance.

■外部講師活用研修会

外部講師の活用におけるメリット、課題などを提示し、活用に向けたプロセスについて実践事例の紹介とともに、より具体的な実施方法を説明。

<内容>

開会 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育 がん教育推進係長 大坂 圭 氏	視聴期間の案内
挨拶（対談形式）約 5 分 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課長 樺原 哲哉 氏 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育 がん教育推進係長 大坂 圭 氏	<ul style="list-style-type: none">・導入・本研修のねらいについて・がん教育における外部講師の活用について <p>→がん教育に外部講師を活用することについて →外部講師活用の難しさ →学校として、外部講師の方々に望むこと</p>
講義（約 20 分） 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟 氏	<ul style="list-style-type: none">・第4期がん対策推進基本計画・令和5年度におけるがん教育の実施状況調査の結果・がん教育に関する教材・ガイドライン等・外部講師を活用したがん教育ガイドライン →ガイドラインの説明 →教材を活用した中学校での実践事例について
Q&A（約 15 分） 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟 氏 ※インタビュー方式で実施	<ol style="list-style-type: none">1. 外部講師の依頼にあたって2. 外部講師と繋がるための関係機関への依頼方法と流れ3. 外部講師と教員が連携した授業のポイント、効果的な関わり方4. 外部講師活用の上での配慮が必要な事項
閉会 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 がん教育推進係長 大坂 圭 氏	事後アンケートのお願い、がん教育実施状況調査がある旨について連絡

※文部科学省の組織改編に伴い、令和7年10月1日付で健康教育・食育課は総合教育政策局へ移管されました。

<Q&A>

Q 1. 外部講師はどのような方に依頼すればよいでしょうか。

A.

- ・各学校におけるがん教育を実施する上でのねらいや方針に応じて、講師を選定。
- がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合
 - ・専門的な内容を含むため、学校医、がん専門医（がん診療連携拠点病院の活用を考慮）など、医療従事者による指導が効果的
- 健康や命の大切さをねらいとした場合
 - ・がん患者やがん経験者による指導が効果的

Q 2. 実際に外部講師を活用するためにはどのような関係機関と繋がればよいですか。依頼の流れを教えてください。

A.

自地域に、教育委員会が窓口となり外部講師を派遣する仕組みがあるか確認する。地域によっては、派遣できる講師のリストをホームページなどで公表していることもある。よくわからない場合は、まず自校の管理職に相談するとよい。各地域の保健福祉部局では「がん対策推進計画」などを作成していることが多いので、そこに相談してみることも有効。学校運営協議会を設置している学校であれば、その仕組みを活用して地域の人材を募ってみるのもよい。

Q 3. 外部講師と教員が連携した授業を実施する場合のポイントはありますか。また、外部講師にはどのような関わり方が効果的でしょうか。

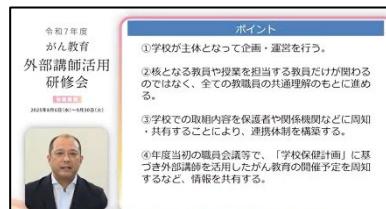
A.

授業を実施する学校は講師の専門性やこれまでの経験が十分に生かされるように工夫することが重要。外部講師は伝えたい内容を一方的に話したり、難解な言葉や専門用語を用いたりすることは望ましくない。また、効果的な関わり方については、指導形態や授業のねらいによつてもかわってくることもある。重要なことは学校のニーズ、外部講師の思いや考えを事前に双方で話し合い、授業のねらいに合わせて共通理解を図っていくことである。

Q 4. 外部講師を活用したがん教育を実施する上で、配慮が必要な事項について教えてください。

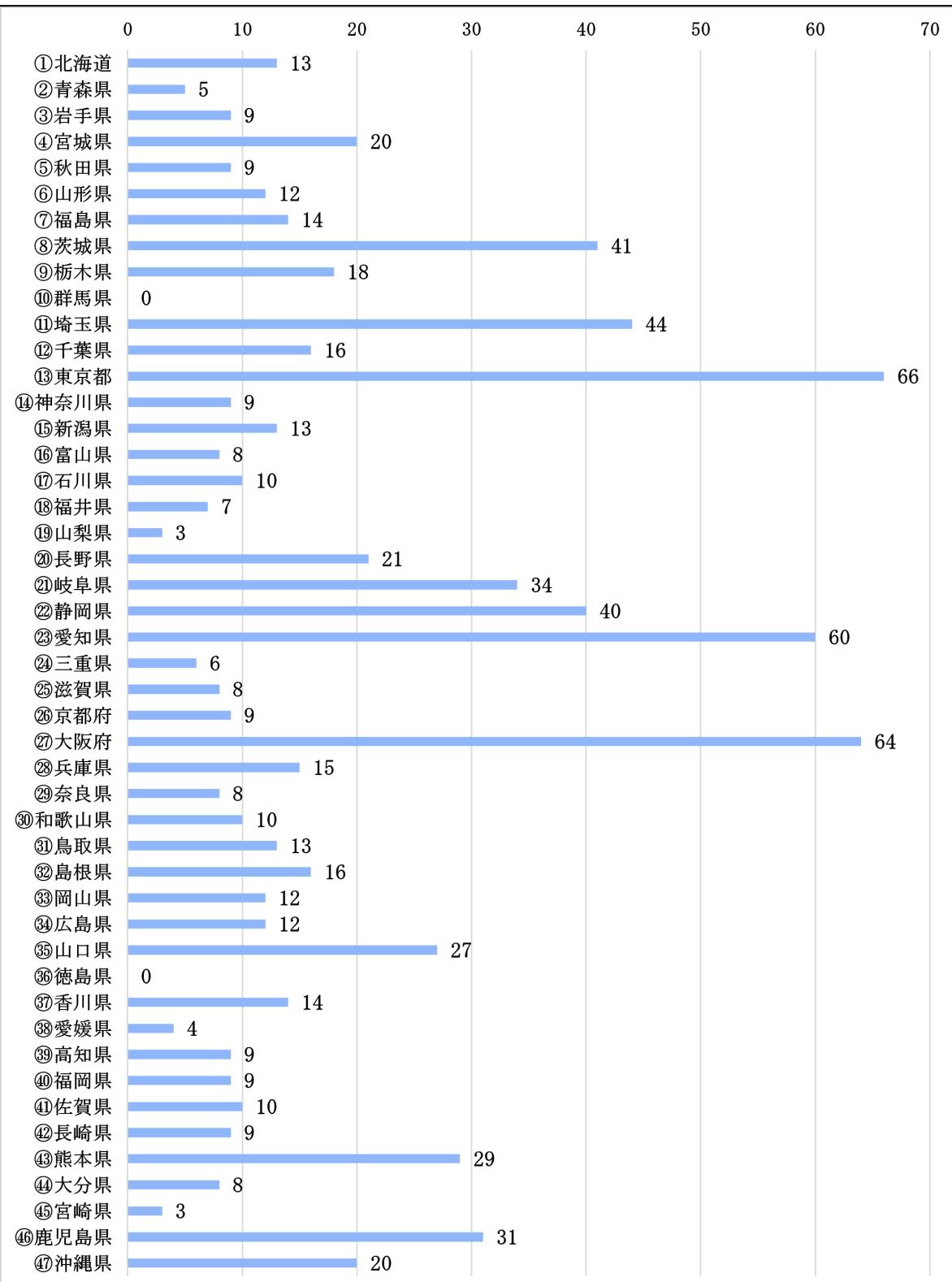
A.

- ・ 配慮が必要な事項は、外部講師を活用しない場合とかわりではなく、次の4点において、適切に対応していく必要がある。
 - ① 小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒がいる場合
 - ② 家族にがん患者がいる児童生徒や、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合
 - ③ 生活習慣が主な原因とならないがんもあり、特に、これらのがん患者が身近にいる場合
 - ④ がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒や、家族に該当患者がいたり、家族を亡くしたりした児童生徒がいる場合
- ・ その中の具体的な配慮の例として、
 - 家族にがん患者がいる児童が在席しているので、その児童に対して、つらくなったら退出してもよい旨の事前指導を実施
 - 小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童がいるので、事前に保護者や本人に了解を得た上で、がん教育を実施などがあげられるが、いずれも一定の配慮をすればそれで解決するようなものではなく、配慮を必要とする児童生徒ががん教育を受けてよかつたと思ったかという視点が重要。
- ・ 具体的な配慮の方法については、児童生徒の状況を最もよく把握している教職員（学校）が、学校全体の共通理解のもと、個別の状況に応じて検討を行うことが重要であり、外部講師にも必要な情報を共有し、連携を図ることが大切。
- ・ 保護者や本人に学習内容等を説明した上で、保護者や本人の意向を尊重した対応を行う。



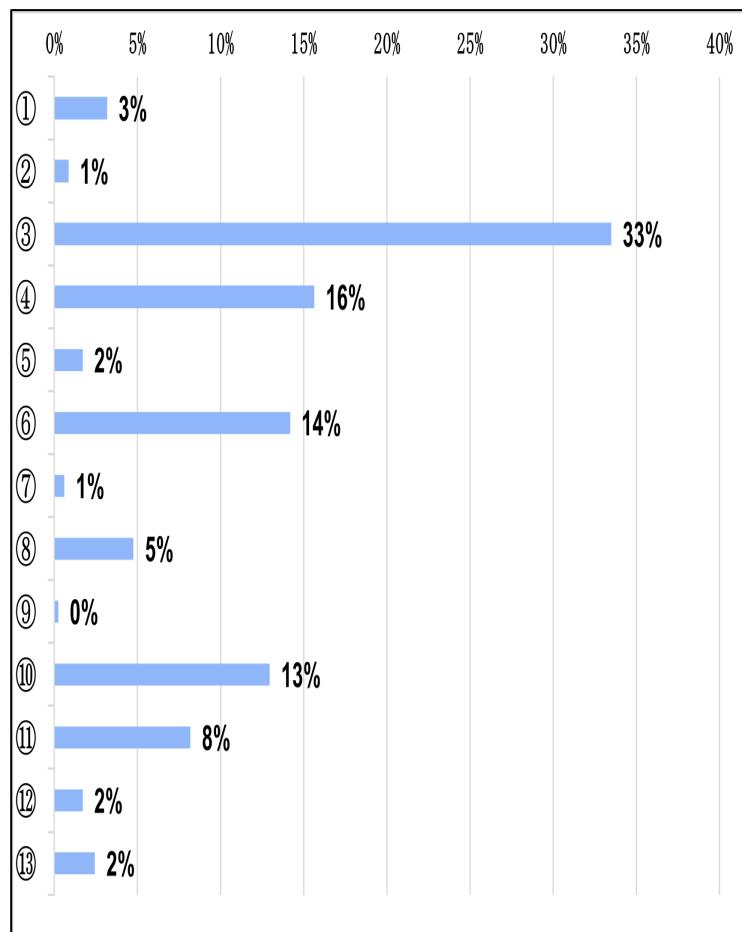
3. 視聴者数およびアンケート回答数

- ・教材活用研修の視聴者数 : 総計 1,813 名
- ・外部講師活用研修の視聴者数 : 総計 1,397 名
(以下、都道府県別内訳) (人)



- ・アンケート回答数 : 818 名
(以下、所属組織別内訳)

所属カテゴリ	回答数	構成
① 都道府県教育委員会	26 人	3%
② 市区町村教育委員会	7 人	1%
③ 小学校	274 人	33%
④ 中学校	128 人	16%
⑤ 義務教育学校	14 人	2%
⑥ 高等学校	116 人	14%
⑦ 中等教育学校	5 人	1%
⑧ 特別支援学校	39 人	5%
⑨ 高等専門学校	2 人	0%
⑩ 外部講師関係者 (医療関係者)	106 人	13%
⑪ 外部講師関係者 (がん経験者団体、個人等)	67 人	8%
⑫ 薬局、薬店関係者	14 人	2%
⑬ その他	20 人	2%
合 計	818 人	100%



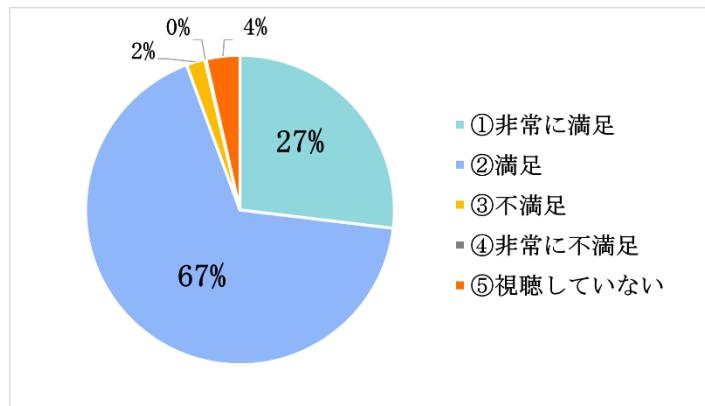
4. アンケート集計結果

■教材活用研修

- ・アンケート項目 1 「教材活用研修視聴後の満足度」について

回答	回答数	構成
① 非常に満足	220 人	27%
② 満足	552 人	67%
③ 不満足	16 人	2%
④ 非常に不満足	1 人	0%
⑤ 視聴していない	29 人	4%

「非常に満足」「満足」の肯定的な評価で94%、「不満足」「非常に不満足」で2%という結果で、高い満足度が伺える。



・アンケート項目2 「非常に満足」「満足」の回答理由について(抜粋)

所属カテゴリ	研修内容の満足度	回答理由
④中学校	①非常に満足	今後の教材研究、生徒にどのように伝えるか、生徒が自分事としてとらえられることが出来るような授業にするためにどのようにしていきたいかなど考えることが出来た。 生徒が最終的に自分で意思決定し行動できるような授業を作りたい。
④中学校	①非常に満足	発達段階に応じた現教育の指導のポイントについて、資料等を用いながら示してあったので分かりやすかった。また、実際の授業の様子を視聴できたことで、がん教育についての授業の流れを具体的にイメージすることができた。子供たちが自分事として考えられるような授業づくりを目指して、体育科の教諭を主として学校教職員全体でがん教育の推進に力を入れていきたいと思う。
③小学校	②満足	正しい知識をもつことの大切さを実感し、学校でがん教育を行う意義を感じたため。
③小学校	②満足	文部科学省で豊富な教材を作っていたいているので、忙しい現場でもこれを活用して健康教育をしていけると思った。
⑥高等学校	②満足	一方的な知識の伝達だけではなく、発達段階に応じて、子どもたちが興味をもてる教材の工夫や科学的なデータの提示など、効果的な教材使用が重要であることが理解できた。 また、児童生徒等本人だけでなく、家族や周りにがんに罹患している等の患者がいる場合、当然配慮が必要であり、事前の確認や打ち合わせなどの具体例が理解できた。

「教材や動画を用いた具体的な説明で理解しやすかった」という意見が多かった。
特に、実際の授業映像や実践紹介を通して授業の流れや指導方法を具体的にイメージできた点が評価されていることが伺える。また、がん教育の目的や意義、発達段階に応じた指導の重要性を改めて理解できたという意見も見られた。

・アンケート項目2 「不満足」「非常に不満足」の回答理由について(抜粋)

所属カテゴリ	研修内容の満足度	回答理由
②市区町村教育委員会	③不満足	各教材の具体的な紹介や、教材を用いた授業の好事例をもっと学びたかったため。
⑩外部講師関係者 (医療関係者)	③不満足	補助教材の問題でもありますが、内容・統計情報のアップデートがされていない。
⑪外部講師関係者 (がん経験者団体、個人等)	③不満足	小学生、中学生、高校生別の研修会を期待していたから。

・アンケート項目3 「がん教育を効果的に推進するために必要な教材（動画等）」について
(抜粋)

所属カテゴリ	回答理由
③小学校	教材を活用する際に、学校の実態に合わせて内容を精選できる点がとてもよいと感じた。PDFだけでなくパワーポイントなどのデータを自由に活用できるため、子どもに合った内容を組み込んだり編集したりできる点ががん教育を効果的に推進していくぞうだと感じた。
③小学校	見て終わりにならず「主体的で対話的で深い学び」になるようにワークシート等も準備されているのがありがたい。欲を言えば、一人1台端末があるので、タブレットで操作できたりするワークシートがあると、書き込みやすかったり、意見を共有しやすかったりするのかなと思った。
③小学校	授業の導入部分として、「がんとは何か・原因は・どんながんが多いのか」等の、実際に子どもに見せることができる動画があると助かる。
⑥高等学校	授業場面において、生徒自身が、がんについて調べ学習をする際に参考となる資料（ホームページのリンク先など）がわかった。
⑧特別支援学校	特別支援学校向けの動画等の教材があるとよい。 生命の安全教育教材のように、幼児、小学生、中学生、高校生向けのようになっていると、発達段階に準じて教材を選択して使用することができる。
⑪外部講師関係者 (がん経験者団体、個人等)	正しい知識を得るためには、正しい情報が必要。 がん治療等は年々進み変わっていくので、新しい情報をどんどん入れてほしい。

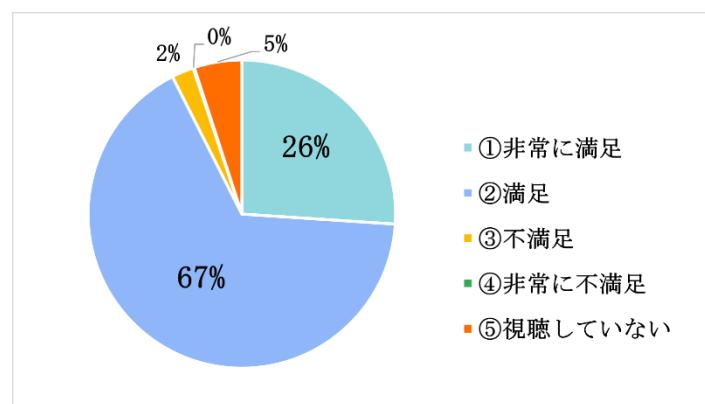
文部科学省によるがん教育推進のための教材・参考資料等への評価は一定数見られ、さらに活用できるよう各学校の実情に合わせた教材のアイデア等、発展的な意見も多く見られた。また動画は児童生徒の理解促進や外部講師が利用できない場合の代替手段としても期待されていることが伺えた。

■外部講師活用研修

・アンケート項目1 「外部講師活用研修視聴後の満足度」について

回答	回答数	構成
① 非常に満足	213人	26%
② 満足	544人	67%
③ 不満足	19人	2%
④ 非常に不満足	1人	0%
⑤ 視聴していない	41人	5%

「非常に満足」「満足」の肯定的な評価で94%、「不満足」「非常に不満足」で2%という結果で、高い満足度が伺える。



・アンケート項目2 「非常に満足」「満足」の回答理由について(抜粋)

所属カテゴリ	研修内容の満足度	回答理由
④中学校	①非常に満足	外部講師の活用となると、事前の打ち合わせや時間の確保など大変な部分があり、なかなか活用できていないのが現状。しかし、授業の様子を視聴したときに、外部講師の方からの言葉が子どもたちにしっかりと届き、外部講師の方からだからこそ学べる貴重な体験になるのだと感じた。子どもたちにとってどのような指導形態で、どのような内容をねらいとして指導していくのがよいのか、担当教諭だけに任せることではなく学校全体で考えていきたいと思った。
⑦中等教育学校	①非常に満足	本校の実施形態に対する注意すべき事柄や個々の生徒の事情などを踏まえ、事前、実施、事後に必要な配慮や内容についてイメージできた。
⑧特別支援学校	①非常に満足	「外部講師」を活用する際には、手続きや、講師との事前打ち合わせなど、時間的にゆとりが取れないこともあり、否定的な考えもあったが、本研修を受けたことで、「外部講師」を活用することで、「専門性・知識」、「生命の大切・尊さ」などをより深く伝えることができると言うことに気付かされた。
③小学校	①非常に満足	実際の授業の動画のおかげで、外部講師の活用方法を具体的にイメージすることができた。
①都道府県教育委員会	②満足	外部講師の活用について、本県における整備体制と授業実施時の様子について照らし合わせながら研修を受講することができた。それぞれの専門性や経験を持った講師活用を行う中で、特に「学校が主体となって企画・運営を行う」「学校全体の健康教育の一環として教職員間の共通理解・情報共有を行う」というポイントを挙げられていたところが印象的だった。実際の派遣の現場が講師任せになっていないか、講演が終了した後にきちんと自分事として学んだことを生活の中で生かしていくかが教育委員会の方でなかなか把握ができていないところだったと感じたため、県教委から学校への働きかけについても考えることができた。
⑥高等学校	②満足	講師選定の際の、外部講師の専門性の把握と取組のねらいについての視点を学ぶことができた。

がん教育を行うことに否定的な考えをもっていた人、外部講師の必要性を理解しつつも、時間的にゆとりがなく推進できていない人等の意見から、外部講師を活用することに積極的でなかったが、意識が変わったことが伺える内容コメントが見られた。実践事例の動画を視聴しながら研修を行ったことで具体的にイメージできたことが評価の背景にあると思われる。

・アンケート項目2 「不満足」「非常に不満足」の回答理由について(抜粋)

所属カテゴリ	研修内容の満足度	回答理由
⑩外部講師関係者(医療関係者)	③不満足	教材研修会との重複が多く、外部講師活用の内容が限定的で、具体的な示唆が少なかった。
⑩外部講師関係者(医療関係者)	③不満足	実際の外部講師との事前やりとりの様子がわかると、なおよかったです。
⑩外部講師関係者(医療関係者)	③不満足	子どもたちを「主体的・対話的で深い学び」へと誘うための、外部講師ならではの具体的な工夫の提示が少ない。
⑪外部講師関係者(がん経験者団体、個人等)	③不満足	今までの研修で学んだことと内容の多くがこの研修と重複していたので、あまり満足できるものではないと感じた。

・アンケート項目3 「今年度実施予定のがん教育の構想や課題等」について(抜粋)

所属カテゴリ	回答理由
③小学校	外部講師を活用する予定は今のところないが、知識教授だけで終わってしまわぬよう、子どもの身近なところでがんについての子どもの思いを語ることができ、がん予防を自分事として捉えられるようにする指導内容が必要。発達段階に合わせた授業の構想を検討したい。
④中学校	病院勤務の看護師を外部講師として招き、講義形式で話をしてもらう予定。昨年度までの反省では、1時間の授業に対する情報量が非常に多いことや、話がどうしても一方通行になってしまい、生徒が集中しづらかったことが挙げられていた。内容を精選し、1年間ですべては伝わらなくても、中学校在学中の3年間で内容が網羅できれば良いのかなと考えてはいるが、講師とどこまで共通理解が図れるかが課題。
④中学校	派遣する講師の職種や立場が生徒へ伝えたい内容とリンクされるか等、目的にあったものにするため、事前打ち合わせが重要だと感じた。自身もサバイバーなので、教育者の立場・あるいはサバイバーとしての立場と考えていきたいと思った。
④中学校	授業時間の確保について課題を感じる。教員間で指導に対する温度差と、教員の身近な人にがんサバイバーがいることで、連携が取りづらいこともある。
⑧特別支援学校	動画内にもあったように、がん教育を行う際には、本人や家族、また身近な存在への細やかな配慮が必要であると感じた。授業者だけでなく、管理職や養護教諭など、学校全体で行っていくべきである。
⑬その他	現在市主体で、保健師と講師の2人で実施している。年々実施校も増えており、学校側の関心が高まっているように感じる。今後、学校主体で実施する形にしていきたい思いもあるが、健康増進の視点でいえば周知啓発の場にもなるのでメリットもある。学校に求められるうちは実施していくのがより効果的で波及効果があるか悩ましい状況。

がん教育を進めるにあたって、時間の確保や運用上の課題はもちろん、教職員間の認識の共有を始めとした校内連携の必要性に関する意見も見られ、学校全体として取り組んでいくことの重要性が理解されてきていることが伺える。

・アンケート項目「研修会への要望等」について(抜粋)

所属カテゴリ	回答理由
③小学校	がん教育を進めるにあたり、児童の実態に応じて配慮しなければならない事項がいくつかあったが、具体的にどのような配慮を行ったのか事例を知りたいと思った。
③小学校	日頃は執務に追われてゆっくり教材を見ながらの研修はできないが、夏休みにこのような研修会を企画していただきありがとうございました。
③小学校	全国的にもがん教育の実施率はまだそれほど高くないようだが、研修を受ける度、がん教育の必要性を感じている。どの学校でもがん教育が実施できるよう、このような研修の機会を継続していただきたい。
⑥高等学校	いずれの動画も視聴したが、内容が重複している部分も多く見られた。各研修内容の具体的な実践事例を多く紹介していただけるとありがたい。
⑥高等学校	講義資料をダウンロードできるとありがたい。
⑧特別支援学校	保護者の理解を得るために事前アンケートの内容、生徒の理解を図る様式例、計画的に進めていく上でのポイントなど学びたいと感じた。
⑧特別支援学校	特別支援学校の現場でのがん教育の在り方など、具体例を挙げて教えて頂けるとありがたい。

オンデマンド形式によって自由な時間に視聴できる点、視聴期間の適切さ等、利便性を高く評価している意見は上記以外にも多くあった。また今後も継続開催を望む意見が多く見られた。要望としては、小学校や特別支援学校も含め、校種別に実践事例の充実化、継続的な情報提供や教材更新等があった。